



住田 英次 議員

いつもいっしょにいたから

ペット動物の災害対策



認知症の高齢者による徘徊事故対応は

問 認知症の高齢者による徘徊中の鉄道事故等により高額な損害賠償請求の事例が増えている。

町内にはJRの予讃線や私鉄の郊外電車が走っている。将来、高齢者の2割が認知症になると推測される中、介護する家族が少しでも安心して暮らせる町づくりが求められるが、

公費による保険加入により、安心して暮らせる町づくりを進めていただきたいのが取り組みの考えは。

答 大川健康課長

国では、認知症高齢者の徘徊中の鉄道事故による介護家族への損害賠償請求の事案を踏まえ、提訴された介護家族に対する救済措置のあり方につ

いて関係省庁で構成する『認知症高齢者等にやさしい地域づくりに係る関係省庁連絡会議』において検討した結果、直ちに新たな制度による対応は困難であるため、当面、損害賠償は必要に応じて民間保険の紹介や普及を行うとしている。

町としても国が示すとおり、民間の損害賠償保

険の周知に努めていきたい。



避難所へのペット同伴避難への対応は

問 避難所の設置時におけるペットの受け入れについて考える必要が高まってきている。本町としてペットを伴った避難者の避難所での対応のルールづくりを早急に確立してほしいが町の考えは。

答 和田総務課長

平成26年3月に作成された松前町の「災害時避難所運営マニュアル」では、避難所へのペット同行避難は原則禁止となっているが、施設的に余裕があり、ペットの同行を望む避難者が多い場合などは、避難者で運営する運営本部会議で状況に応じた対応を検討することになる。

現在、国及び愛媛県では、東日本大震災での事例を踏まえて、飼い主とペットが一緒に逃げる同行避難を呼びかけているが、避難者が大勢いる中で一定期間ペットと共同生活をする場合は、動物が苦手な人、アレルギーを持つている人等への配慮が求められる。町として、今後、住民

の皆さんのご意見を参考にして検討していきたい。

